

中央大学特定課題研究費 ー研究報告書ー

所属	文 学 部	身分	教授
氏名	緑 川 晶		
NAME	MIDORIKAWA, Akira		

1. 研究課題

（和文）認知症・高次脳機能障害と発達特性に関する研究

（英文）Developmental disorders in people with cognitive impairment

2. 研究期間

1年間（2018年度）

3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word 程度）

（和文）

発達障害は、自閉症や注意欠陥多動性障害、学習障害などを含む用語であり、その背景として脳の器質的な問題が想定され、長いあいだ幼少期を対象として調査研究がなされてきた歴史がある。近年の研究では、発達障害の特性は年齢によって軽減する部分もあるが、その多くは成人期以降も永続すると考えられ、当然、高齢になっても永続すると考えられるが、発達障害の視点では、老年期の発達障害についての言及はほぼ皆無であった。一方で、認知症やその周辺症状の中で、社会的な行動障害が顕在化することがあるが、発達障害の視点から語られることも無かった。発達障害の人々の中には、変化に対して脆弱であるが故に、不適応となりやすいことが知られており、これを踏まえると、たとえそれまで発達障害と診断されていない場合でも、それまでの発達障害の特性が認知症の発症や認知機能の低下とともに顕在化する可能性が考えられる。また、同じく脆弱なために、高次脳機能障害となった場合に、発達障害の特性が強まり、不適応的な行動を呈する可能性も考えられるが、高次脳機能障害による発達障害への影響は明らかにされていない。そこで本研究では、認知症や高次脳機能障害者の症候を発達障害との関連から検討を行うとともに、介護者や支援者の視点から、地域に在住する認知症、あるいは高次脳機能障害と発達障害との関連や潜在的な可能性について検討を行った。

（英文）

Developmental disorders in childhood and adulthood are well known, however, it is unclear if there is developmental disorder in aged people and people with cognitive impairment. In this study, we tried to clarified the possibility of subclinical developmental disorders in those people in community.